

校長職を楽しむ

久留米市小学校長会会長

景色を肌で感じるができるので自転車に乗ってよく遠出をします。年度末の3月31日にも心の中にたまったいろいろな思いを整理したくて、片道40kmの道のりを小石原まで行ってきました。

昨年7月の豪雨の直後に行ったときから比べるとだいぶ復旧はされていたのですが、北野、朝倉と通り過ぎ杷木から松末にかかるとまだまだ至るところに水害の傷跡が残っていました。特に、谷の両側の山々の斜面は削り取られたままで地肌がむき出しになっており、大変いたましく感じました。被災された方々の復興が一日でも早く実現することを願わずにはいませんでした。

しかし、一方ではその赤々とした、また、黒々とした山肌に、みずみずしい鮮やかな草花の芽吹きを見ることができ、不謹慎かも知れませんが、ここでは今から何か新しいことが始まるのだという期待感というか、躍動感というか、そんなものを感じている自分がいました。

さて、私たちの日常はどうでしょう。これまで行ってきた慣例ややって当たり前だとされているルーチンをこなすことに追われていることはないでしょうか。もちろん校長として責任を果たしていかなければならないことは山ほどあります。

ただ、ちょっとだけ頑張っ、やらなければならないことのスキマに新しい草花が根を張り、花を咲かせ、実をつけるようなスペースを作ってみてはどうかと思うのです。あるいは、やらなければならないと思っていたことに変えて、思い切って新しいことを始めてはどうでしょうか。担任をしていた頃の私たちはやらなければならないことだけをやっていたわけではないと思います。子どもの笑顔のためにやってみたいことをやっていたのではないのでしょうか。そして、それは苦勞ではなく楽しいことでした。まさに今の言葉でいうところの「探求的な」教育を行っていたように思います。

「確かな学力」「豊かな心」「たくましい体」を育成していく道筋は限りなくあると思います。やらなければならないことを乗り越えて、学校の実態、校長の経験、職員の思いなどから考えられる様々なアプローチの在り方を創造していって見たらどうでしょうか。子どもも教師も「楽しかった」「面白かった」と感じる教育活動を増やしていくことは、学力を向上させ、不登校を少なくすることにつながると思います。

そんな、各学校の実践を持ち寄り、語り合い、校長職を楽しむ校長会であってもいいのではないかと考えています。

巻頭で述べるのにはふさわしくない理念的な内容になってしまいましたが、やらなければならない具体的なことはこの要項にしっかりと記載されていますので、これまでの先輩方が成し遂げられてきたことを大切にしながら、本年度も校長会として協力して取り組んでいきたいと思っています。